

梅雨明けの高原、霧ヶ峰で涼味満喫



【山行日】 2019年8月3日（土）

【交通・費用】 チャータバス利用：4,800円（バス代4,200円＋温泉入浴料600円）

【参加者】

CL：Y SL：S

アルプスサークルメンバー 10名＋ゲストメンバー 6名 合計16名

【コース】

バス移動：野木公民館（5：00）～高速道路～車山の肩（8：50）

歩行：車山の肩（9：10）～車山（10：00）～蝶々深山（11：00）ランチ
～物見岩（11：50）～八島ヶ原湿原（13：00）

当初は八島ヶ原湿原から諏訪神社、沢渡を経て車山の肩までの約2時間のルートを歩いて戻る計画だったが雨雲が接近しているのを把握、八島ヶ原湿原をゴールとした。ここからバスで白樺湖畔の「すずらんの湯」へ移動、入浴後はバス山行ならではのビールの乾杯で締めくくり、今思えば最高に美味かった☆

深田久弥をして「もっとも高原らしい高原を挙げよといわれたら、私は躊躇なく霧ヶ峰と答える」と言わしめた霧ヶ峰。そして更に「妙な言い方だが、山には、登る山と遊ぶ山とがある。前者は、息を切らし汗を流し、ようやくその頂上に辿り着いて快哉を叫ぶという風であり、後者は、歌でもうたいながら気ままに歩く。もちろん山だから登りはあるが、ただ一つの目標に固執しない。気持の



車山から蝶々深山に向かうパーティ

いい場所があれば寝ころんで雲を眺め、わざと脇道へ入って迷ったりもする。当然それは豊かな地の起伏と広濶な展望を持った高原状の山であらねばならない。霧ヶ峰はその代表的なものの一つである。まだ戦争の始まらない頃、私は霧ヶ峰で一夏を過ごし、遊ぶ山の楽しさを十分に味わった」とも言っている。（深田久弥：日本百名山より）

正にその通りの山行でした。梅雨明けが遅く、そして明けたと思ったら今度は猛暑続きの下界から抜け出し、私たちが来るのを待っていたかのような涼風と咲き誇る高原の花々が迎えてくれ、久弥ならずとも遊ぶ山での楽しさを堪能でき、涼味を満喫してきました。

今回は「アルプスサークル懇親山行」という自主山行名目でしたが、参加はだれでもOK、よって16名がバスで楽しみました。朝5時に野木を出発、9時10分登山開始。既に涼味十分。車山の肩の登山口からすぐに広々とした丘陵に「ニッコウキスゲ」そしてさわやかな涼風。散策路まがいの登山道を、歌は出なかったがまさに懇親、あれこれ話をし、笑いあいながら余裕で10時に山頂。残念ながら遠望は悪く、遠くの山稜は見えなかったが、近傍の丘陵と花の景色は余りあった。蝶々深山、物見岩と辿り途中早めの昼食。この間も歩く足元には種々の花が咲き、疲れを全く感じさせない山行でした。

ちょっと残念だったのは、昼過ぎからの雲行き、そして雷。もうゴールはすぐそこなので、不安はなかったが、咲き誇る沿道の花を足早に見ながらの最終下山でした。でもこれは正解。バスに着いてゆっくりする間もなくポツリ・ポツリ。よってスタートからゴールまで満点。「高原らしい高原」、そして「遊ぶ山の楽しさを満喫できる」この季節の山行でした。（記：N）

梅雨の蒸し暑い7月も過ぎて、8月に入ってやっと真夏のからっとした天気を待ちわびての、霧ヶ峰高原の散策でした。

夏雲と青空、そして日光キスゲの黄色のじゅうたん、元気なかわいい小学生たちの声、八島ヶ池のほとりで、ランチを楽しむ若い二人、ウツボ草やヤナギラン、ナデシコの花々に、弾む会話。梅雨空に真夏の日差しが退き、雨雲と雷が鳴る中、無事終え、高原の散策を満喫できました。（記：N）



ニッコウキスゲ



ウスユキソウの一種



ゴールの八島ヶ原湿原での記念写真